

テーマ：景気動向指数（6月）の予測（暫定）

発表日：2008年7月30日（水）

～基調判断は「悪化」へ下方修正～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主任エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○ C I一致指数は再び低下

7月30日時点で公表されている統計により計算を行うと、6月のC I一致指数は、前月差▲1.6ポイントが予想される。5月には同+1.6ポイントと3ヵ月ぶりに上昇していたが、6月に上昇分をすべて吐き出す形になる。プラスに寄与するのは商業販売額（卸売業）のみ、横ばいも1系列で、残りの7系列はマイナスに寄与するなど、幅広い悪化がみられた（資料3参照）。

C I先行指数についても前月差▲1.9ポイントを予想する。先行指数は4、5月と2ヵ月連続で前月差プラスだったが、6月は再び大きく低下する見込みである。下げ止まりはまだ先のようだ。

なお、一致指数では所定外労働時間指数（製造業）（7/31公表）、先行指数では新設住宅着工床面積（7/31公表）が現時点で未公表である。今回の試算においては、所定外労働時間指数を前月比▲0.8%、新設住宅着工床面積を同+5.0%と仮置きして計算している。この2系列の結果次第では、一致C I、先行C Iの予測値も変更する可能性がある。

○ 基調判断は「悪化」へ下方修正

内閣府によるC I一致指数の基調判断については、4、5月の「局面変化」から、「悪化」へと下方修正されることが予想される。内閣府の定義によると、「悪化」とは「景気後退の可能性が高いことを暫定的に示す」とされており（「局面変化」は「事後的に判定される景気の山・谷が、それ以前の数か月にあった可能性が高いことを暫定的に示す」と定義）、C I一致指数からは、景気が既に転換点を過ぎていることが示唆されている。7月のESPフォーキャスト調査では、景気転換点を既に通過したと判断するフォーキャスターは36名中16名（44.4%）と半数に満たなかったが、今後は、足元で既に景気後退入りしているとの見方がコンセンサスになると予想される。

○ D I一致指数は4ヵ月連続で50%割れ

D Iについては、先行指数が60.0%、一致指数が33.3%が予想される。D I一致指数は4ヵ月連続で50%を割り込む見込みである。3ヵ月連続50%割れという景気後退の簡易基準を引き続き満たしており、D Iからも景気後退が示唆されている。

D I先行指数は、現在公表されている9系列のうち、6系列が改善、3系列が悪化している。残りの住宅着工床面積は悪化が予想され、60.0%が予想される。D I一致指数は、現在公表されている8系列のうち3系列が改善、5系列が悪化している。残りの所定外労働時間は悪化が予想され、D I一致指数は33.3%が予想される。

(資料1)

CI一致指数

(2005年=100)

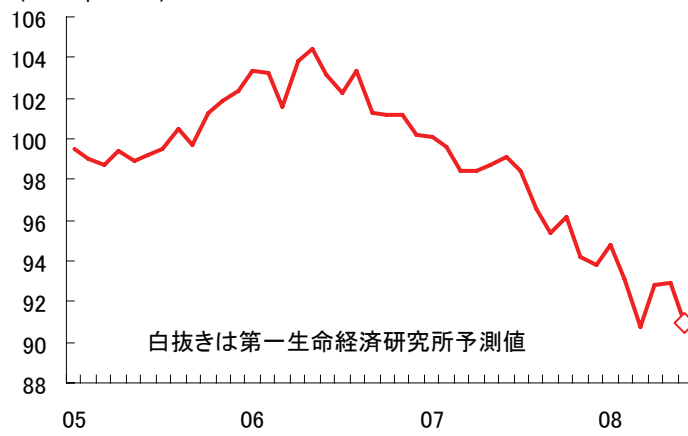


(出所)内閣府「景気動向指数」

(資料2)

CI先行指数

(2005年=100)



(出所)内閣府「景気動向指数」

(資料3) 一致指数の前月差に対する個別系列の寄与度の予想

寄与度がプラスの系列	寄与度	寄与度がマイナスの系列	寄与度
商業販売額(卸売業)(前年同月比)	0.02	投資財出荷指数(除輸送機械)	-0.36
商業販売額(小売業)(前年同月比)	0.00	中小企業売上高(製造業)	-0.34
		生産指数(鉱工業)	-0.26
		大口電力使用量	-0.25
		鉱工業生産財出荷指数	-0.21
		有効求人倍率(除学卒)	-0.16
		所定外労働時間指数(製造業)	-0.09
営業利益(全産業)	0.04		
稼働率指数(製造業)	0.01		